# LUZ の熊野古道案内

2007 年　7 月　上

7 月 1 日　～　7 日

目次

２００**7** 年　**7** 月


7 月　1 日　夏休みの前に・・・紀和町の記事訂正
7 月　2 日　山里　廃坑の町　入鹿
7 月　3 日　山の中に海洋センター　紀和町
7 月　4 日　山の学校　入鹿中学校
7 月　5 日　この辺では珍しい立派な八幡神社
7 月　6 日　廃校矢の川小学校
7 月　7 日　廃校矢の川小学校の怪

2007 年　07 月　01 日

## 熊野の旅　夏休みの前に・・・紀和町の記事訂正

以前に熊野市紀和町に関した記事を載せたときに、『トロッコ列車』の運休と再開予定を乗せたと思います。

たぶん、そのときには今頃はもう動いているはずのスケジュールを掲載したと思います。

ところがどっこい、『予定は未定』で、どんどん延びてゆくようです。

これはトロッコ乗り場の片方の駅『瀞流荘駅』に張り出されているポスターです。

『平成１９年１０月３１日まで休業いたします』と、あります。

前回もこんな表現だったでしょうか？

これなら、１１月１日に再開しなくて良い様でもありそうですね。再開しますとは書いていませんからね。

廃業した方が本当は良い筈なのですが、廃業しないのがお役所の外郭らしいですね。絶対に運転用の人件費も稼ぎ出せないのですからね。

ただ…動かせないわけではないらしく、夏休みの８月 5・19・26 日の日曜日にはイベント的に動かすようです。何回か動かした実績を作らないといけませんからね。

問合せ先は『瀞流荘』　05979-7-1180　か　『湯の口温泉』　05979-7-1126　だそうです。どうしてもの方は問い合わせをしてみてください。両方ともに三セク的な施設ですからどんな応対になるのか分かりませんが・・・小さな施設ですから多分分かると思います。

稼動していないのでこうした写真を撮るのにはいいですよ。

もっとも、動いていても人が歩くのより少し早いだけですし、坑道に下りるような傾斜地ではないので跳ねられることは無いのですが、叱られますからね。

　レンズのテストに撮影したもので、バウッシュ＆ロム 88mm、エクター127mm、フジナー180mm、ジンマー210mmの四本を同じところで同じフィルムで使ったものをレポートしています。
　カメラは　　クラウン・グラフィック
Tags:熊野市 クラシックカメラ 紀和町

2007 年　07 月　02 日

## 熊野の旅　山里　廃坑の町　入鹿

　今は熊野市に入っていますが、二年ほど前までは三重県南牟婁郡紀和町でした。さらに５０年程前には三重県南牟婁郡入鹿村でした。その頃にはまだ人が一杯居ました。飲み屋はもちろんのこと、映画館もあった結構にぎやかな村でした。
　その山の中の村を目指して、木本や新宮の商売人が荷物を担いで売りに入りました。それを元のおきな店を構えた人も居るのです。
　それを支えたのは古くから銅を産出したと言われている『入鹿銅山』です。
　こうした鉱山の町の宿命で閉山になるととたんに支えるものが無くなり人口が一気に減少します。北海道の夕張、歌志内など炭鉱の町も同様です。
　流れ者が多くて住民登録など無いものも多く、実際は何人居たか良く分からないといわれるのですが、一万人を超えたと言われた物です。今では８割がた減少してしまいました。
　基幹道路の国道３１１号線の整備が進み、熊野市、新宮市が三十分ほどになりました。通勤圏内ですね。
　これは田舎のどの場所でも起きるのですが、こうして、道路が良くなると過疎に弾みがつきます。親は地元に住んで欲しいのですが、子供には出て行きよい口実が出来たのです。

『なんぞあったら、電話してきたらええのに…三十分も掛からんと来れるんやさか…』
『田圃はどうするんや？』
『こんなちっちゃい田圃なら、日曜日に通うてでも出来るのに…』
『…』
『それに、同級生も居らんような学校に子供を入れたくないし。塾も無いじゃろが…』
『…』
『家建てるんでも、土地代以外はここに立てても一緒じゃろう？』
『そりゃそうじゃが…』
『よそへ行かんと地元に残っただけでも有難いと思うてもらわんと…』
『ありがたいとおもてるよ』
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
などというような感じで、よそへは行かないけど、街に出てしまいます。
都会の人は、田舎の景色を見て『こんな良い所に住まないで、どうして町に出るの？』とか言いますが、肉も魚も売っていない田舎での暮らしは、若い嫁さんにはつらいことなのです。町に出たからってそんなに遊ぶところなんて無いのですがね。
そして、残るはお年寄りばかり…
やたらと多かった軽トラも減少するようになりました。立派になった国道を時速30Km ほどで這うように動いている軽四輪トラックには『枯葉マーク』が…
道が良くなったので、そのお年よりも免許さえあれば町のスーパーやホームセンターへ…
そのガソリンもついでに外で入れられるので、山の中のが無くなっても困らなくなったのでしょうかね。入鹿の目抜き通りにあったスタンドなんですが…

Tags:熊野市 紀和町 昭和

2007 年　07 月　03 日

## 熊野の旅　山の中に海洋センター　紀和町

皆さんは「笹川良一」って人を覚えていますか？

戦後日本のドンの一人とも言われた人です。

岸信介元総理の盟友とか…ほとんどのギャンブルが公営なのに『競艇』だけが民営です。その、巨大な利権を手に入れたものすごい方です。

その資金を元に、慈善事業？もやっていました。

小さなところでは、私のお袋がやっていた『詩吟』のスポンサーでもありましたね。

全国的に展開したのが、『海洋センター』とか言う、青少年教育施設です。

その一つが、海のない南牟婁郡紀和町に出来たのは昭和５０年ごろでしょうかね。

結構大きな室内遊泳場です。

場所は紀和町板屋の目抜き通り、国道３１１号線沿いです。隣には公民館、前には郵便局、紀南信用組合（廃業）、ちょいと離れて紀和町役場（現・熊野市紀和庁舎）とまさに中心です。

出来てから３０年ほど経過し、外装の手入れなどされていないので廃墟風に見えますが、今も開館しているようです。

子供が小さい頃に何度か遊ばせに行きました。まだ、国道３１１号線が改修されていなくて風伝峠を越えていったものです。

使っている水は「北山川」の伏流水でものすごくきれいです。

そのかわり…夏場でも、ものすごく冷たかった記憶があります。

オープンして物珍しかった頃には熊野をはじめ新宮、勝浦くらいまでの親子連れでにぎわったものです。

紀和町を流れる川は、熊野川の支流、『北山川』でこの少し上流には、名勝『瀞八丁』があります。ここの『瀞』は『どろ』とにごります。関東の方は『長瀞』の関係でにごらないで読むでしょうが、こちらでは間違いになります。

北山川は水量も多く急流になるので、子供の遊泳には向かないので、プールは有難いのですが、歩いたり自転車で来たり出来る子供はその頃からほんの少しでした。今ではいったい何人居るのでしょうかね。

子供連れで紀和町に来られたら、トロッコ電車も動いていませんから、ここで泳がせてあげるしかないかも知れません。

Tags:熊野市 昭和 紀和町

2007年　07月　04日

## 熊野の旅　山の学校　入鹿中学校

旧紀和町立入鹿中学校です。
今の国道ではなく、旧道に面した『小栗須』と言う静かなところにあります。
もっとも、今の国道３１１号線沿いの目抜き通りにあっても静かなものですが…まあ、こちらの方がイメージ的には、ものすごく静かなところです。
かつては阿田和から越えてくる入鹿街道と、旧西山村や旧育生村方面からの街道がまじわって、鉱山の中心地板屋に通じる賑やかな所だったのです。
当然のように子供の数も多くて学校もにぎやかだったはずです。
この校舎は熊野市と合併するまでに自治体としての紀和町が立て直した、瀟洒な校舎です。山の景色にそのうちに溶け込んでゆくものだとは思うのですが、溶け込む前に山に飲み込まれなければいいがなあ…と、さえ思います。

都会の方から見ると、
『環境が良くて・・・』
『空気の良いところでのびのびと・・・』
『悪い誘惑もなさそうだし・・・』
そんな感じでしょうね。
ずいぶん昔から、田舎の学校は建物が古くても、環境は同じようなものでした。
地元の熱血先生や名物先生が居て…
素直に育ちすぎて都会の水になじめなかったり、競争意欲のない仲良しクラブ感覚過ぎる卒業生も多かったのも確かです。
山の学校の飛鳥中学では、私の頃には下から１０番は上から７０番とかでした。いまだと、下から１０番はトップになるのかも…
少人数学級なんて当の昔に達成しています。
あこがれる親御さんが居たら、一家そろって引っ越して繰らばいかがでしょうか？

紀和町にある公営住宅は最近空き室がやたらと出るらしく、しょっちゅう募集をしていますよ。
Tags:熊野市 紀和町 クラシックカメラ |

2007 年　07 月　05 日

## 熊野の旅　この辺では珍しい立派な八幡神社

入鹿中学校のそばに神社があります。

街道が交わるところに、こんもりした杜があり、さほど大きくない社が鎮座しています。全国的に広がりを持つ『八幡神社』の一つですが、この辺りでは『はちまんさん』はあまり見かけません。

『八幡さん』といえば鎌倉の『鶴ヶ丘八幡宮』といわれるように、鎌倉幕府と縁がある神様のようです。

鎌倉幕府が全国を治めるようになり、『地頭』だ『守護』だとか言われる武家が派遣されたり公認されたりするとともに、『八幡さん』も広がって行ったとか聞きます。

鎌倉に対するゴマすりだったのか、流行だったのか知りませんが、土着の神々でないことだけは確かですね。

この辺り、紀州のド田舎にはまともに武家などありませんし、やはりここは関西なので『八幡神社』は少ないのでしょうかね。

この入鹿で銅を産出したのは鎌倉以前からとか言う説もあるようですし、『熊野詣』と言うものが盛んであった時代ですから、治める公務員でも派遣されたのでしょうかね。
『荘園』はあったようで、『垣内・かきうち』『西垣内・にしがいと』などと言う苗字があります。

境内はスッキリしていて木陰で休むにはいいところです。
『神々しいと感じる』とか『畏敬の念を抱く』というような雰囲気は私には感じられません。熊野の古代信仰の地が後世に今流神社に変わった場所とは明らかに違います。
私は神道とか古神道には興味がありません。単純に自分の感性がそこに『何を感じるか』だけで『良い』か『たいしたこと無い』か『良くない』を判断するだけです。
その道の人から見れば『能書き』には有難いものがあるのかもしれませんが…
熊野古道歩きにも語り部は要らない…と言うのが私の持論です。
何も考えずに山道を歩き、大きな岩を眺め、滝を見て感心し…それで良い…その中で何かが感じられれば良し、感じる必要もなければそれでも良し…
ほんの少しの基礎知識だけ持てば熊野の地は歩けるでしょう。
『有難い』と思うから、『後の世に救いがある』と単純に信じたから、難行苦行して三山参りをしたわけです。能書きが無いからこそ信じられたのだと思います。
私などは自分で能書きを作っちゃいますから、有難くなくなっちゃいますし、歩けなくなります。この『八幡神社』も、もし紀和に来られることがあれば、立ち寄って一休みするにはいいところだと思います。

Tags:熊野市 熊野古道 紀和町

2007 年　07 月　06 日

## 熊野の旅　廃校　矢の川小学校

以前にも書きましたが、この辺りに厄介な地名があります。
その一つが、この『矢の川』です。
アマチュア無線家や悪路愛好家だと、尾鷲と熊野の境、旧国道４２号線の峠を思い出し、『やのこ』と読むでしょう。紀和町の人なら『やのかわ』と読むでしょうね。
国道３１１号線、丸山千枚田の入り口の近くにこの学校はあります。
台帳上で廃校なのか休校なのかは知りませんがずいぶん長く使われていませんし、再開することも無いでしょう。
山間の静かな場所に国道から一段上がって、ひっそり建っていますから、目の前の国道を走っても存在に気が付かない人が多いと思われます。
この学校も歴史は古く、明治時代に開校し昭和５０年に開校１００年の式典が行われたようです。それからしばらくして閉められたものです。

この学校の配置や造りは廃校になった熊野市立波田須小学校とよく似たものです。
平地の少ない場所に狭いながらも運動場を確保するとこうなるのかなあ…と言う感じです。
日本人の持つ山の学校の風景と言うイメージにはぴったり合うのではないでしょうか。
校舎の脇の、多分、校長先生の官舎だったような建物には誰か住んでいるようです。教員住宅としては使っていないと思うのですが…
最近まで違う自治体だったところなので良くわかりません。
この学校には夜中とか明け方には立ち寄らない方が良いかもしれません。理由は明日書きます。

Tags:熊野市 紀和町 クラシックカメラ

2007 年　07 月　07 日

## 熊野の旅　廃校矢の川小学校の怪

いい雰囲気の校門です。

人気がなくなり余計に雰囲気が出ているような感じもします。

この下は登校用の『階段』です。降りるとすぐに国道３１１号線です。

昨日の話はこの『怪談』？？？ではありません。

「学校の花子さん」だとか、学校と怪奇話を結びつけるのが好きなお国柄ですがね。

こちらのムードたっぷりな坂道は、自転車や自動車が上がれるようにした登校口です。この下に第二グランドもあるので子供たちもほとんどこの坂道を使ったのでしょうね。学校最後の頃は運動会とかに『老人車』をおばあちゃんが押して上がったのかも…

明け方、夜中にここに近づかない方が良いと書いた証拠は、下のデジタルカメラで

撮ったカラー写真です。
　この登校口の脇のコケや草むらを掘り返したのは草抜きのためではありません。ミミズを探すためです。

　これを最初見たとき、？？？と思ったのですが、この周囲あちこちがこうなっていました。まさに、掘りたて…前の晩に掘ったようです。
　子供が釣りをするのにミミズを探したのは、もう大昔に話でしょう。
　ほっくり返したのは…『もののけ姫』の悪役…イノシシです。
　この辺は田舎ですから、本場の『神戸市』ほど街中にイノシシは出てきません。それに、この辺のイノシシは田舎者ですから、昼日中に街をうろついたり、人の持っているのもをねらったりはしません。もちろん、黒いサングラスをかけたぐれたようなのも居ないと思います。
　しかし、イノシシは猛獣です。
　しし撃ちに使うために飼われてきた『紀州犬』でも、その牙にかかって死に至ることもあります。
　自分から襲ってくることの無い動物ですが、驚いたら、狸のように気絶するのではなく、逃げるか襲ってくるかです。
　いくらムードがありそうでも…人気がなくても…夜中にアベックで語り合うには少々物騒な感じです。暗い時間は近寄らないでください。
　Tags:熊野市 紀和町 クラシックカメラ